2024年度

日本健康医療専門学校

シラバス　（講義概要）

鍼灸学科

1年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
人文科学１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
赤塚 史		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

専門科目の学習を始めるにあたり、いま一度「読むこと・書くこと」を中心とした国語基礎力を総点検する。また、社会人として適切な言葉の運用ができるよう、必要な知識を身に着ける。自身の知識や思考を誤解なく相手に伝えるためには、どのような言葉で、どのような手順で伝えるのがよいのか、実践的に学ぶ。

〈到達目標〉

「わかりやすい文章」がどのように作られるのかを理解し、自分でも作成できるようになる。様々な文章に触れ、読んで理解し、知識を蓄える。

2 授業内容

第1回　対面1コマ	授業ガイダンスと自己紹介の作成		
第2回　対面1コマ	文の書き方①(一文一義、主語述語の位置など)		
第3回　対面1コマ	文の書き方②(話し言葉と書き言葉、読点など)		
第4回　オンライン5コマ	文章構成の仕方		
第5回　対面1コマ	「じゃんけん」説明文を書く		
第6回　オンライン5コマ	意見文の書き方		
第7回　対面1コマ	物語を〈読む〉		
第8回　オンライン5コマ	一般教養を身につける①(慣用句、難読地名など)		
第9回　対面1コマ	一般教養を身につける②（日本の習慣など）		
第10回　対面1コマ	一般教養を身に着ける③(間違いやすい漢字など)		
第11回　対面1コマ	エッセイを〈読む〉		
第12回　オンライン5コマ	敬語をマスターする①		
第13回　対面1コマ	敬語をマスターする②		
第14回　対面1コマ	日本の古典に触れる		

3 履修上の注意

資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習(事前準備)が必要な場合は、その都度指示をする。

5 教科書

6 参考書

適宜紹介する。

7 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価)
試験(レポート形式)

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校での国語関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
人文科学２		1学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
赤塚 史		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

医療従事者として責任をもって患者と向き合い、同僚と良好な関係を築くために必要なコミュニケーションを学ぶ。例えば、〈医療従事者と患者〉間の情報伝達と、〈医療従事者同士〉での情報伝達とでは、相手に合わせて伝え方を変える必要があるだろう。また、相手の世代や言語環境への留意も必要となろう。社会人として、また専門職の担い手として、相手にわかりやすい説明をし、相手が正しく理解できる文章を作成し、相手の話をきちんと聞

〈到達目標〉

医療従事者として正しく十分な説明ができるよう、自身の言葉の使い方を見直し、修正できるようになる。インフォームド・コンセントへの認識を深める。

2 授業内容

第1回　オンライン5コマ	相手に伝わる表現を探す		
第2回　オンライン5コマ	事実と意見を分けて伝える		
第3回　オンライン5コマ	伝え方のバリエーションを増やす①		
第4回　対面1コマ	他己紹介		
第5回　対面2コマ	伝え方のバリエーションを増やす②		
第6回　対面2コマ	対象に合わせた掲示物を考える		
第7回　対面2コマ	場面に応じた表現を使う①		
第8回　対面2コマ	場面に応じた表現を使う②		
第9回　対面2コマ	聞き書きの練習をする①		
第10回　対面2コマ	聞き書きの練習をする②		
第11回　対面2コマ	オノマトペを適切に使う		

3 履修上の注意

資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習(事前準備)が必要な場合は、その都度指示をする。

5 教科書

6 参考書

適宜紹介する。

7 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価)
試験(レポート形式)

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校での国語関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会科学１		1学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
上本 昌昭		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

あはき師は、免許制度を通じて業務範囲が規制され、開業などについてもルールが定められています。また、患者のQOL向上や社会復帰を実現するためには、「医療」や「福祉」を中心とする他の専門職種と連携して、業務を行うことが必要となります。この科目は、こんにちの多様化する患者ニーズに応えるために必要な法律の知識を身につけるための授業です。この授業を通じて、あはき師の業務範囲、他の専門職種と連携するための「医療」や「福

〈到達目標〉

・あはき師として業務を行う際に必要とされる、あはき法その他の関連法規の基本概念を説明できる。

・「医療」や「福祉」といった、患者のQOLを高め、社会復帰を支援する仕組みについて説明できる。

2 授業内容

第1回	科目ガイダンス／法とは何かあはき師になぜ法律の知識が必要か、社会規範と法との違い、法の種類について理解する。		
第2回	あはき法①あはき師の業務範囲について、「医療行為」「診療の補助」「医療類似行為」の違いとともに理解する。		
第3回	あはき法②あはき法にある各種手続きと規制、あはき師の法的責任について理解する。		
第4回	関連職種医療や福祉などの分野で連携する他の専門職種について理解する。		
第5回	日本国憲法最高法規としての憲法の特徴、保障される各種人権、憲法とあはき師との関係を理解する。		
第6回	患者の権利人権と「患者の権利」との関係、インフォームドコンセント、守秘義務、個人情報の管理などを理解する。		
第7回	生存権と公衆衛生政策生存権の内容、社会保障制度と公衆衛生の意義と関係について理解する。		
第8回	関連諸制度地域保健法、健康増進法、感染症法など、ライフステージに応じた健康を実現するための各種法律について理解する。		
第9回	保健医療制度医療提供施設の種類、医療提供体制の確保と医療安全を実現する仕組みについて理解する。		
第10回	福祉制度①介護保険制度、介護保険施設など、高齢者への対人援助のための仕組みについて理解する。		
第11回	福祉制度②障害者総合支援法、障害者差別解消法など、障害者への対人援助のための仕組みについて理解する。		
第12回	労働と保健①労働基準法や労働契約法など、「労働者の働き方」に関する各種法律を理解する。		
第13回	労働と保健②労働安全衛生法にある「労働者の健康」に関する規定を理解する。		
第14回	教育と保健学校制度と「児童生徒の健康」を実現する学校保健管理に関する法律を理解する。		
第15回	科目のまとめこれまでに学習した内容を振り返り、定期試験に向けた準備を行う。		

3 履修上の注意

配布したレジュメは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、理解することを諦めないでください。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

法律は表現が回りくどいので、言葉や内容の理解に努め、授業で解いた問題は復習し、確実に解答できるようになっておきましょう。

5 教科書

教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。

6 参考書

特になし。

7 成績評価の方法

各回の授業で小テストを実施する。成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数と定期試験の点数を合算した100点満点で評価する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

大学等で基礎法学を指導

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎人間と生活	訪問治療及び鍼灸院の臨床等の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
自然科学		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		4単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

人体の構造を学ぶ上で、生物学の基本を理解することはとても重要である。この時間は「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学ぶ。

〈到達目標〉

「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学びながら人体の構造上の特徴を理解することが目標となる。

2 授業内容

第1回	人体の構造総論	第16回	7）心臓の血管　3．動脈系　1）肺循環の動脈系
第2回	第1章．人体の構成　1．細胞　1）細胞の構造	第17回	2）体循環の動脈系
第3回	2）細胞分裂と遺伝子	第18回	2）体循環の動脈系
第4回	2．組織　1）上皮組織　2）結合組織	第19回	2）体循環の動脈系
第5回	2）結合組織	第20回	4．静脈系
第6回	3）筋組織　4）神経組織	第2回	5．胎児循環　6．リンパ系
第7回	3．体表構造	第22回	第4章　消化器系　1．消化管の基本構造　2．口腔
第8回	4．人体の区分と方向　1）人体の区分	第23回	3）舌　4）歯　5）唾液腺
第9回	2）人体の切断面と方向	第24回	3．咽頭　4．食道　5．胃
第10回	第2章　循環器系総論	第25回	6．小腸　1）十二指腸　2）空腸と回腸
第11回	1．血管系　1）循環の概要	第26回	3）小腸の組織構造と機能
第12回	2）血管の構造　3）吻合　4）門脈	第27回	7．大腸　1）盲腸　2）結腸　3）直腸
第13回	2．心臓　1）心臓の位置　2）心膜　3）心臓の壁	第28回	4）大腸の組織構造と機能　8．肝臓　9．胆嚢
第14回	4）心房と心室　5）心臓の弁膜　6）刺激伝導系	第29回	10・膵臓　11．腹膜
第15回	定期試験１	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

学則に従い受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の授業内容の復習をすること。

5 教科書

「解剖学 第2版」　東洋療法学校協会編　（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験1と定期試験2それぞれで60％以上を合格とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

スポーツトレーナーとして活動

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	鍼灸マッサージ治療院での実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
解剖学１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について基礎的な解剖学の知識を習得する。

〈到達目標〉

この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について、基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目標に学習する。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション・【第8章神経系】概要	第16回	末梢神経：脊髄神経①
第2回	中枢神経：脊髄	第17回	末梢神経：脊髄神経②
第3回	中枢神経：脳幹	第18回	末梢神経：脊髄神経③
第4回	中枢神経：小脳、間脳	第19回	末梢神経：自律神経
第5回	中枢神経：大脳①	第20回	【第9章感覚器系】概要・視覚器①
第6回	中枢神経：大脳②	第21回	視覚器②
第7回	中枢神経：脳の血管	第22回	聴覚・平衡感覚器
第8回	伝導路①	第23回	味覚器・嗅覚器
第9回	伝導路②	第24回	【第7章内分泌系】内分泌系①
第10回	末梢神経：脳神経①	第25回	内分泌系②
第11回	末梢神経：脳神経②	第26回	内分泌系③
第12回	末梢神経：脳神経③	第27回	神経系総復習1
第13回	末梢神経：脳神経④	第28回	神経系総復習2
第14回	前半総復習	第29回	感覚器系・内分泌系総復習
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

自ら学ぼうとする積極的な態度で臨むこと。わからないところ・疑問に思ったところはそのままにせずに質問するなどして理解に努めること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最初に前回の学習内容の確認を４択形式の問題で行うのでしっかり復習をして臨むこと。４択問題の正答率が低い者には課題を課す。

5 教科書

解剖学　〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

イラスト解剖学(中外医学社)　解剖学講義（南山堂）

7 成績評価の方法

章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を合わせて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
解剖学２		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学は人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識のうち、筋骨格系についてを習得する。

〈到達目標〉

鍼灸臨床において基本となる筋骨格系を理解し、安全な刺鍼を施せるようにする。
また、筋骨格系を理解することで、鍼灸臨床で遭遇する様々な疾患や障害を理解することができる。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション、骨格系総論	第16回	頭蓋骨（脳頭蓋）
第2回	体幹骨格（脊柱）	第17回	頭蓋骨（脳頭蓋）
第3回	体幹骨格（脊柱）	第18回	頭蓋骨（脳頭蓋）
第4回	体幹骨格（胸郭）	第19回	頭蓋骨（顔面頭蓋）
第5回	体幹骨格（胸郭）	第20回	頭蓋骨（顔面頭蓋）
第6回	上肢骨格（上肢帯、上腕の骨）	第21回	筋系総論
第7回	上肢骨格（上肢帯、上腕の骨）	第22回	体幹の筋（胸筋）
第8回	上肢骨格（前腕の骨）	第23回	体幹の筋（胸筋）
第9回	上肢骨格（手の骨）	第24回	体幹の筋（胸筋）
第10回	下肢骨格（下肢帯の骨）	第25回	体幹の筋（腹筋）
第11回	下肢骨格（大腿の骨）	第26回	体幹の筋（腹筋）
第12回	下肢骨格（下腿の骨）	第27回	体幹の筋（背筋）
第13回	下肢骨格（下腿の骨）	第28回	体幹の筋（背筋）
第14回	下肢骨格（足部の骨）	第29回	体幹の筋（背筋）
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

授業中の私語、居眠り等厳禁。その他学側に従い受講すること。
課題提出や口頭試問があった場合は合格をもって受験を許可する。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習復習を必ず行い、知識の定着を心掛けること。

5 教科書

解剖学〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

7 成績評価の方法

筆記定期試験60点％以上、小テストはその得点を成績に加味する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

教員資格取得

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	鍼灸整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
解剖学３		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
金 世野		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目的とする。また運動学では、人間の身体運動の構造や性質を物理学の領域を用いて系統的に応用し、解剖学と関連させて学ぶことで、関節運動を深く理解することができる。関節障

〈到達目標〉

この講義では、運動学、解剖学（泌尿器系、生殖器系,運動器）について、その知識を身に付けることを目標に学習する。

2 授業内容

第1回	泌尿器系（1）腎臓の構造	第16回	運動学基礎（6）上肢（自由上肢）の筋
第2回	泌尿器系（2）腎臓の構造	第17回	運動学基礎（7）上肢（自由上肢）の筋
第3回	泌尿器系（3）尿管～膀胱の構造/尿路の構造	第18回	運動学基礎（8）下肢（下肢帯）の筋
第4回	泌尿器系（4）尿路の構造	第19回	運動学基礎（9）下肢（下肢帯）の筋
第5回	生殖器系（1）男性生殖器	第20回	運動学基礎（10）下肢（自由下肢）の筋
第6回	生殖器系（2）男性生殖器	第21回	運動学基礎（11）下肢（自由下肢）の筋
第7回	生殖器系（3）女性生殖器	第22回	運動学基礎（12）下肢（自由下肢）の筋
第8回	生殖器系（4）女性生殖器	第23回	運動学基礎（13）肩関節
第9回	運動学基礎（1）筋総論	第24回	運動学基礎（14）肘関節
第10回	運動学基礎（2）体幹（頭頸部）の筋	第25回	運動学基礎（15）手関節
第11回	運動学基礎（3）体幹（頭頸部）の筋	第26回	運動学基礎（16）股関節
第12回	運動学基礎（4）上肢（上肢帯）の筋	第27回	運動学基礎（17）膝関節
第13回	運動学基礎（5）上肢（自由上肢）の筋	第28回	運動学基礎（18）足関節
第14回	総復習	第29回	復習
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

医療従事者において基礎となる大切な科目の為、居眠りなどせず、積極的に参加すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、見直し出来るようにすること

5 教科書

解剖学（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験１および定期試験２それぞれ60％以上の成績と小テストの結果も考慮して単位を認める。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	鍼灸治療院、鍼灸整骨院、整形外科での実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
生理学１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野坂 裕美		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学ぶ。それらが人

〈到達目標〉

生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。

2 授業内容

第1回	生理学の基礎①細胞の構造と機能	第16回	呼吸①呼吸器概要
第2回	生理学の基礎②細胞小器官	第17回	呼吸②呼吸運動
第3回	生理学の基礎③体液の組成と働き	第18回	呼吸③肺機能
第4回	生理学の基礎④物質移動	第19回	呼吸④換気とガス交換
第5回	循環①血液の組成と働き、赤血球	第20回	呼吸⑤呼吸の反射性調節
第6回	循環②白血球、血小板、血漿	第21回	消化と吸収①消化器系の構造と機能
第7回	循環③止血、血液型	第22回	消化と吸収②消化管の運動
第8回	循環④心臓血管系	第23回	消化と吸収③消化液と消化酵素（1）
第9回	循環⑤心臓の構造と働き	第24回	消化と吸収④消化液と消化酵素（2）
第10回	循環⑥心機能の調節	第25回	消化と吸収⑤消化管ホルモン
第11回	循環⑦血液循環	第26回	消化と吸収⑥吸収
第12回	循環⑧循環調節	第27回	消化と吸収⑦肝臓の働き
第13回	循環⑨特殊な部位の循環、リンパ系	第28回	消化と吸収⑧まとめ
第14回	前半総復習	第29回	後半総復習
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

生理学はのちに学習する臨床科目の礎となる科目である。疑問点、不明点を解消し理解に努めること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、該当箇所の予習・復習を行う。定期的に確認小テストを行うので特に復習を怠らないこと。

5 教科書

公益社団法人　東洋療法学校協会　編　『生理学　第3版』　医歯薬出版株式会社

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験と確認小テストを併せて評価する。定期試験は60％以上を合格点とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

鍼灸学校教員資格

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	訪問鍼灸、鍼灸整骨院で鍼灸・あん摩マッサージ施術の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
生理学２		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
東垣 可奈絵		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識を学習する。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。また、それらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。

〈到達目標〉

この科目では、主に神経系・筋・運動・感覚の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。

2 授業内容

第1回	神経基礎	第16回	筋
第2回	神経基礎	第17回	筋
第3回	神経基礎	第18回	筋
第4回	神経基礎	第19回	運動
第5回	中枢神経	第20回	運動
第6回	中枢神経	第21回	運動
第7回	中枢神経	第22回	運動
第8回	中枢神経	第23回	運動
第9回	中枢神経	第24回	感覚
第10回	末梢神経	第25回	感覚
第11回	末梢神経	第26回	感覚
第12回	自律神経	第27回	感覚
第13回	自律神経	第28回	感覚
第14回	自律神経	第29回	感覚
第15回	筋	第30回	感覚

3 履修上の注意

学則に従い受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

基礎科目として重要な科目であるため、毎授業の予習と復習を怠らないこと。

5 教科書

生理学第3版　公益社団法人東洋療法学校協会 編

6 参考書

7 成績評価の方法

各試験で60点以上の成績をもって合格とする。

※場合により、小テストを実施しその結果と受講態度・出席状況を加味する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
生理学３		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、主に代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調について学び、それらが人体の機能においてど

〈到達目標〉

生理学の代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調の分野について、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得する。

2 授業内容

第1回	代謝①　食品と栄養素	第16回	内分泌①　ホルモンの特徴
第2回	代謝②　糖質の代謝	第17回	内分泌②　視床下部と下垂体のホルモン
第3回	代謝③　脂質の代謝	第18回	内分泌③　甲状腺・副甲状腺のホルモン
第4回	代謝④　タンパク質の代謝	第19回	内分泌④　膵臓のホルモン
第5回	代謝⑤　ビタミン･無機質の代謝	第20回	内分泌⑤　副腎のホルモン
第6回	代謝のまとめ	第21回	内分泌⑥　性ホルモン・その他のホルモン
第7回	体温①　体温調節	第22回	内分泌まとめ
第8回	体温②　体熱の産生と放散	第23回	生殖・成長と老化①　生殖
第9回	体温③　発汗とその調節　体温調節の障害	第24回	生殖・成長と老化②　成長・老化
第10回	体温まとめ、排泄①　腎臓の働き　腎循環	第25回	生体の防御機構①生体の防御機構
第11回	排泄②　尿の生成	第26回	生体の防御機構②白血球の働き
第12回	排泄③　腎臓と体液の調節	第27回	生体の防御機構③免疫反応、アレルギー
第13回	排泄④　蓄尿と排尿	第28回	生体の防御機構　まとめ
第14回	排泄のまとめ	第29回	身体活動の協調
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

生理学はのちに学習する臨床科目の礎となる科目である。わからない点・疑問に思った点はそのままにせず質問するして理解に努めること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最初に前回の学習内容の確認を４択形式の問題で行うので前回の授業の復習をすること。4択問題の正答率が低い者には課題を課す。

5 教科書

生理学（東洋療法学校協会編）

6 参考書

生理学Ⅲ用に作成したサブテキストを使用する。

7 成績評価の方法

章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を併せて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	鍼灸接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
東洋医学概論		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

東洋医学は鍼灸医学の根幹をなす学問である。この講義の目的は東洋医学における人体の捉え方や考え方を身近な事例を通して学び、西洋医学と異なった視点で東洋医学の世界観を理解することにある。
鍼灸臨床において東洋医学的に病態を把握するためには、東洋医学的な生理観および病理観の知識が欠かせない。そこでこの時間では生理物質（精・気・血・津液）および臓腑の生理と病理を関連する要素ごとに学んでいく。

〈到達目標〉

最終的には、東洋医学による診断・治療を行うための基礎知識を身に付けることを到達目標とする。

2 授業内容

第1回	ガイダンス	第16回	蔵象⑥心と小腸
第2回	生理物質(精・気・血・津液)①	第17回	蔵象⑦脾
第3回	生理物質(精・気・血・津液)②	第18回	蔵象⑧脾
第4回	生理物質(精・気・血・津液)③	第19回	蔵象⑨脾と胃
第5回	生理物質(精・気・血・津液)④	第20回	蔵象⑩肺
第6回	生理物質の相互関係	第21回	蔵象⑪肺
第7回	神の生理と病理	第22回	蔵象⑫肺と大腸
第8回	人体における陰陽①	第23回	蔵象⑬腎
第9回	人体における陰陽②	第24回	蔵象⑭腎
第10回	蔵象①	第25回	蔵象⑮腎と膀胱
第11回	蔵象②肝	第26回	五臓の相互関係
第12回	蔵象③肝	第27回	気機の相互関係
第13回	蔵象④肝と胆	第28回	経絡病証
第14回	定期試験1	第29回	総復習
第15回	蔵象⑤心	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

私語は慎むこと、机上に飲食物やスマホを置かない、その他学則に従い受講すること

4 準備学習（予習・復習等）の内容

5 教科書

東洋医学概論

6 参考書

基本としくみがよくわかる　東洋医学の教科書　東洋医学のしくみ

7 成績評価の方法

定期試験60%以上を合格とする。小テストを行った場合、成績に加味する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	大学病院付属鍼灸センター及び訪問治療の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
経路経穴概論１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。習得する範囲としては、十四経脈のうち、督脈、任脈、手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾

〈到達目標〉

この講義では、実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴できるレベルに到達することを目標とする。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション・経絡・経穴の概要	第16回	足陽明胃経(講義)
第2回	経絡・経穴の概要	第17回	足陽明胃経・足太陰脾経(講義)
第3回	体表指標、骨度法	第18回	足太陰脾経(講義)
第4回	同身寸法、要穴の概要①	第19回	足陽明胃経(取穴)
第5回	要穴の概要②	第20回	足陽明胃経・足太陰脾経(取穴)
第6回	要穴の概要③	第21回	手少陰心経・手厥陰心包経(講義)
第7回	督脈背部(講義)	第22回	手少陰心経・手厥陰心包経(取穴)
第8回	督脈背部(取穴)	第23回	手太陽小腸経(講義)
第9回	督脈(講義・取穴)	第24回	手太陽小腸経(取穴)
第10回	任脈(講義)	第25回	足太陽膀胱経(講義)
第11回	任脈(取穴)	第26回	足太陽膀胱経(講義)
第12回	手太陰肺経・手陽明大腸経(講義)	第27回	足太陽膀胱経(取穴)
第13回	手陽明大腸経(講義)	第28回	足太陽膀胱経(取穴)
第14回	手太陰肺経・手陽明大腸経(取穴)	第29回	定期試験2
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

取穴実技においては実技細則に準拠すること。その他、学則に従い受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。

5 教科書

新版　経絡経穴概論（医道の日本社）

6 参考書

鍼灸学　基礎編（東洋学術出版社）

7 成績評価の方法

各定期試験で60％以上の成績を合格とする。小テスト、課題、授業態度を成績評価に加味する。暗唱試験に合格しない者は評価を取り消す。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	大学病院付属鍼灸センター及び訪問治療の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
経路経穴概論２		1学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		1単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、また取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。また、経穴にはそれぞれ名称があり、由来を知ることも経穴を理解することで大切な要素であるため、昔の

〈到達目標〉

実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに、取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴出来るレベルに到達することを目標とする。

2 授業内容

第1回	足の少陰腎経(講義)		
第2回	足少陰腎経・手少陽三焦経(講義)		
第3回	足少陰腎経(取穴)		
第4回	手少陽三焦経・足少陽胆経(講義)		
第5回	手少陽三焦経(取穴)		
第6回	要穴表試験、足少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
第7回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
第8回	足の少陽胆経(下肢)(取穴)		
第9回	足少陽胆経(頭部)(講義)		
第10回	足少陽胆経(頭部)・足厥陰肝経(講義)		
第11回	足少陽胆経(体幹) ・足厥陰肝経(取穴)		
第12回	足少陽胆経(頭部)(取穴)		
第13回	取穴総まとめ		
第14回	定期試験		
第15回	定期試験		

3 履修上の注意

取穴実技においては実技細則に遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。
その他、学則に従い受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。

5 教科書

新版　経絡経穴概論（医道の日本社）

6 参考書

鍼灸学　基礎編（東洋学術出版社）

7 成績評価の方法

定期試験で60％以上を合格点とする。小テスト成績、授業態度を成績評価に加味する。暗唱試験に合格しない者は評価を取り消す。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう理論１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
木下 立彦		2単位	40時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

鍼灸施術を行う上で「はりきゅう」に用いる器具、技術、衛生的処置などについての基礎的な知識は欠かせないものである。この科目においては古来より行われてきた鍼灸の流れを踏まえ、用いられている道具や手技について学んでいくことによって、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。また、臨床上起こり得る有害事象へのリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得することを目標とする。

〈到達目標〉

鍼灸に用いる器具、技術、衛生的処置などについて鍼灸施術を行うのに必要な基礎知識を身につける。また、臨床上起こり得る有害事象に対するリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得する。

2 授業内容

第1回	概論	第16回	まとめ①
第2回	鍼の基礎知識①	第17回	定期試験①
第3回	鍼の基礎知識②	第18回	灸の基礎知識①
第4回	鍼の基礎知識③	第19回	灸の基礎知識②
第5回	鍼の基礎知識④	第20回	灸術の種類①
第6回	鍼の基礎知識⑤	第21回	灸術の種類②
第7回	刺鍼の方式と術式①	第22回	鍼灸療法の刺激量と感受性、適応と禁忌
第8回	刺鍼の方式と術式②	第23回	リスク管理の基本①
第9回	刺鍼の方式と術式③	第24回	リスク管理の基本②
第10回	刺鍼の方式と術式④	第25回	鍼療法の過誤と副作用①
第11回	特殊鍼法①	第26回	鍼療法の過誤と副作用②
第12回	特殊鍼法②	第27回	鍼療法と過誤と副作用③
第13回	特殊鍼法③	第28回	灸療法と過誤と副作用
第14回	特殊鍼法④	第29回	定期試験②
第15回	特殊鍼法⑤		

3 履修上の注意

私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で確認テスト適宜行う予定

5 教科書

はりきゅう理論（東洋療法学校協会編）

6 参考書

鍼灸安全ガイドライン

7 成績評価の方法

１、定期試験①60 %・定期試験②60％で単位認知する

２、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	鍼灸院での臨床等実務経験、開業鍼灸師		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床はりきゅう論１		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
阿部 好史		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

「東洋医学概論Ｉ」で学習した内容は東洋医学生理学。本講義は東洋医学の病理学と診断マニュアルの学習。

〈到達目標〉

東洋医学知識を応用することで、鍼灸臨床で応対する患者モデルをイメージできる能力を身に付けることが最終的な到達目標となる。

2 授業内容

第1回	東洋思想	第21回	臓腑弁証10
第2回	東洋思想	第22回	臓腑弁証11
第3回	陰陽論	第23回	臓腑弁証12
第4回	陰陽論	第24回	臓腑弁証13
第5回	五行学説	第25回	臓腑弁証14
第6回	五行論	第26回	臓腑弁証15
第7回	病因1	第27回	臓腑弁証16
第8回	病因2	第28回	臓腑弁証17
第9回	病因3	第29回	臓腑弁証18
第10回	病因4	第30回	定期試験②
第11回	病因5	第31回	臓腑弁証19-21
第12回	病因6	第32回	臓腑弁証22-23
第13回	八網弁証1	第33回	臓腑弁証24-27
第14回	八網弁証2	第34回	古代刺法
第15回	八綱弁証3-4	第35回	古代刺法
第16回	臓腑弁証1-5	第36回	古代刺法
第17回	臓腑弁証6	第37回	その他の弁証
第18回	臓腑弁証7	第38回	その他の弁証
第19回	臓腑弁証8	第39回	定期試験
第20回	臓腑弁証9	第40回	解答解説

3 履修上の注意

授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語を慎むこと。その他学則に順守する。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

5 教科書

新版　東洋医学概論　医道の日本社

6 参考書

東洋医学概論ドリル

7 成績評価の方法

定期試験60パーセント以上を合格とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技１Ａ		1学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		2単位	60時間	実技

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

鍼施術は刺鍼する位置、角度、深さは、施術者の思った部分に刺鍼できることは基本であるが、練習が必要である。
この講義では、鍼の基本操作（消毒、刺鍼の仕方など）を習得し、身体各部への刺鍼を行う。また、医療事故に対する留意点を認識し、安全な刺鍼操作を身に付ける。

〈到達目標〉

安全な刺入深度、刺入方向での刺鍼をすることができ、また、ステンレス鍼、銀鍼を操作できるようにする。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション、片手挿管	第16回	特別講義
第2回	切皮、刺鍼練習機、自己下腿刺鍼	第17回	銀鍼、肩背部刺鍼
第3回	対人刺鍼、直刺	第18回	銀鍼、膝刺鍼
第4回	対人刺鍼、斜刺	第19回	背部兪穴、夾脊穴
第5回	対人刺鍼、横刺	第20回	最終評価
第6回	刺鍼練習会		
第7回	十七手技、下腿・前腕刺鍼		
第8回	十七手技、腰部刺鍼		
第9回	十七手技、手・足・腰部刺鍼		
第10回	手・足・腰・頸部刺鍼		
第11回	銀鍼、背部、頭部刺鍼		
第12回	銀鍼、背部刺鍼		
第13回	銀鍼、上背部刺鍼		
第14回	銀鍼、肩背部刺鍼		
第15回	銀鍼、肩背部刺鍼		

3 履修上の注意

身だしなみを整え、危険を伴う実習であることを常に心がけること

4 準備学習（予習・復習等）の内容

自宅での練習を必ず行うこと

5 教科書

はりきゅう実技〈基礎編〉（医道の日本社）

6 参考書

7 成績評価の方法

試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。授業態度を評価に加味する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

鍼灸教員免許取得

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	大学病院付属鍼灸センター及び訪問治療の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技１Ｂ		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		2単位	60時間	実技

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

灸術の基本的な技術を学ぶ。艾炷の形や大きさ、ひねり方、点火など、基本的な動作を身につけることを目標とする。また、施術者としての身だしなみや言葉遣いなど基本を学び身につける。

〈到達目標〉

施灸を行う対象物を板、竹筒、紙など、様々なもので基礎的な力を身につけ、人体においても正確でかつスムーズな施灸が出来ることを最終目標とする。

2 授業内容

第1回	手洗い　施術上の注意　艾の種類　灸術の種類　艾ひねり	第16回	特別講義
第2回	米粒大艾ひねり・線香のつけ方・点火	第17回	基礎練習　対人身柱・至陽・肺兪・腎兪・大腸兪
第3回	板上施灸米粒大、点火、艾ひねり＆エアー点火、対人施灸デモ	第18回	基礎練習　対人中脘・天枢・気海
第4回	板上施灸　米粒・半米粒大　灸熱緩和　自己下腿施灸	第19回	基礎練習　対人胃の六つ灸
第5回	板上施灸　米粒・半米粒大　互いに評価	第20回	基礎練習　対人胃の六つ灸
第6回	板上施灸　米粒・半米粒大　互いに評価	第21回	基礎練習　対人百会・失眠
第7回	板上施灸　米粒・半米粒大　紙上施灸、対人失眠	第22回	基礎練習　対人百会・失眠
第8回	板上施灸　米粒・半米粒大、自己下腿・対人失眠	第23回	基礎練習　知熱灸　中脘・天枢
第9回	基礎練習　八分灸　対人孔最　透熱灸自己足三里	第24回	基礎練習　知熱灸　腎兪・大腸兪
第10回	基礎練習(竹筒)八分灸　対人腎兪	第25回	基礎練習　プレテスト
第11回	基礎練習(紙上)　対人足三里、曲池	第26回	基礎練習　肺・大腸経　五兪・五行　8分灸
第12回	基礎練習　対人施灸失眠	第27回	基礎練習　胃・脾経　五兪・五行　8分灸
第13回	基礎練習　互いに評価（プレテスト）	第28回	基礎練習　心・小腸経　五兪・五行　8分灸
第14回	基礎練習　対人施灸足三里	第29回	基礎練習　膀胱・心包経　五兪・五行　8分灸
第15回	定期試験1　板上施灸	第30回	定期試験2

3 履修上の注意

実技細則を遵守すること。実技は怪我・事故を起こす危険があるため、私語を慎み、担当教員の指示に従うこと。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

自宅・実技室開放日などを利用し、練習をすること。

5 教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

①各試験で60％以上の点数を合格とする。②課題未提出者は評価を取り消す。③受講態度を成績評価に加味する。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技１Ｃ		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧		2単位	60時間	実技

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

鍼実技、灸実技でそれぞれ習得した鍼と灸の基本操作と技術をふまえ、鍼術・灸術の基本手技を総合的に身につける。

鍼に関しては、刺鍼対象の経穴に目的の深度・角度に安全かつ適切に刺鍼できる技術を身につける。また、灸に関しては、透熱灸・八分灸以外の施灸方法を学ぶことで様々な灸法の基本技術を習得する。

〈到達目標〉

治療経穴をスムーズかつ正確に取穴ができること、身体各部への刺鍼・施灸が安全かつ正確に行えることを到達目標とする。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション	第16回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸1
第2回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(上肢・下肢)	第17回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸2
第3回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(上肢・下肢)	第18回	鍼灸基礎練習、総復習1
第4回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(腹部)	第19回	鍼灸基礎練習、総復習2
第5回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(腹部)	第20回	定期試験②
第6回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(背部)		
第7回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(背部)胃の六つ灸		
第8回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頸肩部)		
第9回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頭顔面部)		
第10回	定期試験①		
第11回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
第12回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
第13回	鍼灸基礎練習、中国鍼(片手切皮)		
第14回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)1		
第15回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)2		

3 履修上の注意

実技細則違反をしたものは授業の履修を認めない。

他者の命を扱うこと自覚し、教員の指示に従って授業に取り組むこと。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業での課題提出と自己練習を欠かさないこと。

5 教科書

6 参考書

鍼灸医療安全ガイドライン〈医歯薬出版株式会社〉

7 成績評価の方法

最終評価が60％以上で単位を認定する。

授業で課した課題をこなしたものに対して受験資格を与える。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）